令和４年度　学校経営計画・自己評価書

足立区立江南中学校

校長　半村　拓哉

１　学校教育目標

人権尊重の精神を基調とし、主体的に学び、広い視野と深い知識を身に付け、思いやりの心と郷土愛により社会に貢献し、規範意識をもち、心身ともに健康で、たくましく生き抜く、次代を担う生徒の育成を目指す。
教育指針　「学ぶ　鍛える　思いやる」

２　めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	生徒の学ぶ意欲の伸長、学力の向上、社会性の育成を図ることができる学校 地域･保護者に信頼され、力を合わせて生徒を育成する学校 組織で課題解決にあたる学校
○児童・生徒像	向上心をもって粘り強く努力し続ける生徒 他を思いやる豊かな心をもつ生徒 「あじみこし」が身に付いた社会性のある生徒
○教師像	生徒の個性を理解し、よさを伸ばそうと創意・工夫する教師 謙虚に自己研鑽に励み、指導力を発揮する教師 組織の一員として教育活動に取り組む教師

３　学校の現状及び前年度の成果と課題

１　学校の現状
(1)　「地域立中学校」として定着している。
(2)　自校作成の家庭学習ノートを活用して、生徒が目標をもって家庭学習に取り組む習慣を身に付けることができた。
基礎学力の定着が厳しい生徒には放課後補充教室を実施し、定着に努めている。
(3)　学校行事や生徒会活動・委員会活動等には積極的に取り組み、達成感も高い。
(4)　地域行事をとおして、地域や関係保育園・こども園・小学校・高校との連携が定着している。
２　前年度の成果
(1)　新型コロナウィルス感染症予防対策により学習活動が制限されている状況下であったが、各学年の指導内容を終了することができた。また、指導方法を工夫しながら対話的活動を積極的に取り入れた授業を展開した。
(2)　小中連携事業による研究と授業改善や児童・生徒の交流活動はできなかった。
(3)　「あじみこし」を意識した穏やかでけじめのある学校生活を送っている。授業や部活動、委員会活動、学校行事等、積極的に取り組む。幼少期より集団が固定化しているため、互いを認め合い、励まし、支え合っている。
(4)　前年度は、地域や関係幼保園・小学校・高校との円滑な連携ができなかった。後期に入り、中学生消火隊、私の主張発表会では、地域と連携できた。また、部活動体験、アシスタントティーチャーでは、小学生と交流できた。
(5)　一昨年度実施できなかった運動会、学習発表会は入場制限をしながらも実施することができ、伝統を継承することができた。
３　前年度の課題
(1)　新型コロナウィルス感染対策にかかる対応として、また、授業改善の指導法の一つとしてタブレットを積極的に活用する。
(2)　小中連携授業研修のみならず、児童生徒の合同行事等の開催により、より密接な関係を構築する。
(3)　「あじみこし」を生活指導の基本に据え、礼節をわきまえた礼儀作法等をさらに指導するとともに、競争心や向上心の高揚を図る。
(4)　地域や家庭、関係教育機関との円滑な連携により、健全育成をさらに推進する。

４　重点的な取組事項

	内　　容	実施期間（年度）　R:令和				
		R2	R3	R4	R5	R6
1	学力向上アクションプラン	◎	◎	◎	◎	◎
2	小中連携を中心とした地域に根ざした教育活動の実践	○	◎	◎	◎	◎
3	生徒による主体的な活動の推進・キャリア教育の促進	○	○	○	○	○

５　令和４年度の重点目標

重点的な取組事項－１	学力向上アクションプラン

Ａ　今年度の成果目標	達成基準 （目標通過率）	実施結果 （通過率結果）	コメント・課題	達成度 ◎○△●
全教科において足立スタンダードに基づいた活用型授業を展開することで、主体的に学び、深く考え、表現することができる。	R4 区学力調査達成率 65% 到達度確認テスト(１月) 正答率 65%	R4 区学力調査達成率 63.2% 到達度確認テスト(１月) 正答率　60.5%	達成率区平均との開きが、英語－3.9%、国語－3.7%、数学－1.0%と授業改善、補充教室、家庭学習にて個に応じた基礎学力の定着を徹底する。１月の到達度確認テストでは正答率が国語 69%、数学 59%、英語 53%と教科によって差があり、3 日合計の目標正答率を超えられなかった。補充教室や春休みの宿題でフォローアップを行う。	●

Ｂ 目標実現に向けた取組み

新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 （誰が、何を、どのように）	達成確認 方法	達成目標 （＝数値） (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
継続	授業改善	全教科	年間	全教員 ・指導要領改訂に伴う評価評定の理解を深める。	小中連携合同研修会(1 月)	全教員授業研究 １回	コロナ感染に配慮し校内だけの授業研究もあったが、全教員授業研究を２回実施した。 江北ブロック合同研修会を実施した。	管理職及び教務主任より適正な評価評定について資料提示や説明を行った。	○

継続	朝読書	全生徒 国語	毎日 朝 10 分	国語科及び担任 ・毎朝 10 分間読書に取り組ませる。	読書冊数	総貸出数に対する一人当たりの貸出冊数 １人 10 冊以上	4～7 月　年度末 R3　7.77　　11.52 R4　7.79	朝読書だけでなく、図書委員会と連携し、図書室の利用を充実させる。	○
継続	放課後 補充教室	全生徒 小テスト 不合格生徒 英・数	毎日 放課後 25 分	全教員 ・小テスト(全生徒) →不合格者演習３日間 ・定期考査前後(全生徒)	到達度確認 テスト(１月)	正答率 65%	到達度テスト(1 月) 正答率６０．５％	放課後補充教室は、従来の小テストを行う形式と Qubena を使用した形式を、計画的に取り入れ、実施した。スモールステップテストは計画的に実施したが、観点に偏りがあり、課題が残る。また、学年・教科でも差異がある。	△
継続	スモール ステップ テスト	全生徒	年間 ２週間に １回	全教科担当 中１ギャップを減らす。 復習プリント等を与え家庭学習に取り組ませる。					
継続	コンテスト	全生徒	年３回 放課後 25 分	全教員 ・国語７月　英語 12 月 数学２月	コンテスト	合格率 80%以上	合格率国語８３％ 英語８６％ 数学７３％	不合格者も放課後補習で合格した。	○
継続	家庭学習	全生徒	毎日 強化週間 年４回	家庭学習ノートを自校作成 担任が毎日点検	提出状況 ノートの内容	提出状況 100%	提出率第１回 87.6% 第２回 87.8%	学校閉鎖があり第３回は中止となった。第４回は２月実施予定。	△
継続・新規	ＩＣＴの 活用	全教員 全生徒	年間随時	大型モニター・タブレット 現物投影機等を活用した授業を実施する。	全教科 随時活用	ＩＣＴ使用率 100%	全生徒タブレット配付・授業時ＩＣＴ使用率 100%	AI ドリル(Qubena)を区調査の結果と関連付けて活用する。 Qubena カードを数学科で作成し、計画的な復習に取り組んだ。 5 教科全てにおいて、AI ドリルを使った復習に取り組めた。	○
				AI ドリルの活用 ・数学を中心に					

重点的な取組事項－２	小中連携を中心とした地域に根ざした教育活動の実践			
Ａ　今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
小中連携事業とともに、地域行事に積極的に参加し、郷土愛の心を育成する。	小中連携事業をとおして、円滑な接続を図る。 地域行事への参加率を高める。	教員の授業研究により「指導と評価の一体化の実現に向けた系統性あり指導の工夫」を研修した。 年間を通し、感染状況によって地域行事に参加できたもの（私の主張）とそうでないもの（ハッピーイベント）が分かれた。 　文化発表会のリハーサルに小学生を招くことができた。	９年間を意識した教員の研修により、小中の接続を円滑に図ることができる。 児童生徒の交流により、地域への貢献度を上げる。	○

Ｂ 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
地域への貢献	「地域の行事に参加している」70％	・ボランティア活動等への参加（消火隊、地域行事、地域清掃、吹奏楽演奏会等）	・消火隊は校内での練習を含めた活動は実施したが、舎人公園でのイベントには学校閉鎖中だったため不参加となった。 ・私の主張発表会に２年生３名が参加した。 ・ハッピーイベントに１９名のボランティアが名乗り出たが、コロナの状況により、参加させられなかった。 ・地域清掃は土曜授業日に実施を予定したが、天候やコロナの状況によって中止せざる得ないこともあった。 ・吹奏楽演奏会実施予定	ボランティアの募集を募り、それに答える生徒もいる中、コロナの状況で参加を見合わせざる得なくなることもあり、意欲を行動に移せない事もあったが、どのボラインティア活動にも募集に対し、想像を超える数の生徒が募りボランティアに対する意識が高い。	Δ

交流活動の充実	児童・生徒交流５回以上 新入生２学級確保	・授業体験・部活動体験 ・合唱コン練習小学生見学会（小５・６） ・合同百人一首大会(小５・中１) ・サマースクール アシスタントティーチャー ・中３アシスタントティーチャー(２月)	・授業体験ではなく、英語科の出前授業を実施した。 ・部活動体験は 6/24 に実施した。 ・合唱コン練習小学生見学会は小学校６年生に人数を制限し実施した。 ・百人一首大会 ・サマースクールのアシスタントティーチャーは準備はしたが、小学校のコロナ感染状況を鑑み中止となった。 ・2 月のアシスタントティーチャーは実施した。	児童生徒の交流により、円滑な小中連携がなされている。実施前提で全ての準備を行ったものの、実施できない事もあった。 宮城小の６年生の児童数が例年より少ないが、来年度の新入生は２学級を確保できそうである。	○
授業以外の学力向上対策	漢検の合同実施 百人一首合同練習会実施	・各種検定への小学生参加 ・百人一首合同練習会	・漢字検定に小学生も参加した。 ・中学校 1 年と宮城小学校 5 年生の百人一首合同練習会を 2 月に実施した。	小学生の検定受験者は少数かつ同じ児童が複数回受験することが多く、小学校の協力を仰ぎつつ級の幅を広げる等の検討を行っていく。	△

重点的な取組事項－３	生徒による主体的な活動の推進・キャリア教育の促進

Ａ　今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
生徒が自分たちで学校を良くしようとする意識（愛校心）と自己肯定感をはぐくむ。 キャリア教育に関わる取組をとおして､将来や今の自己の生き方について考え･表現できる生徒を育成する。	「学校に行くのが楽しい」80% 「普段の生活や将来社会に出てから役立つよう勉強したい」80%	「学校に行くのが楽しい」71.9% 「自分の好きな仕事に就けるよう、勉強したい」85.6% 「大人になったときの夢や目標がある」57.6%	延期されることも考え、年度の前半に行事を詰め込み実施したことで、振り返りの時間がないまま次の行事に突入するなど、楽しさをかみしめる機会不足が考えられる。	△

Ｂ 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
自尊感情を育む実践	・「自分にはよいところがある」65% ・「あじみこし」90% ・各種表彰並びに掲示	・生徒会が主催の「あじみこし」キャンペーンの実施 ・大会等上位入賞者の表彰や掲示	「自分にはよいところがある」61.9% 「あじみこしを意識して生活している」70.5% ほぼ毎回の朝礼時に何らかの表彰を行い、学校だよりや学年だよりにも取り上げた。	生徒主体の行事運営や朝礼での表彰など、自己肯定感を高める機会を意識し設けたが、目標値を越せなかった。 生活の目標「あじみこし」は定着したため、意識する必要がなくなったと思われる。	○
意志決定能力・キャリアプラン能力の伸長	・教員研修年２回実施 ・体験活動３回以上実施 ・「自分の好きな仕事につけるよう、勉強したい」85%	・教員研修の実施 ・人生プランニング(年２回) ・外部人材の活用 上級生から下級生へ 中学生から小学生へ	・教職員研修はQUを２回、ICTを1回実施した。ICTをもう１回予定。 ・職業に関する講話を外部人材により聞くことができた。 ・「自分の好きな仕事に就けるよう、勉強したい」85.6% ・上級生から下級生に事後学習を含む行事の取り組み方を継承できた。小学生に向けて部活動体験	・教職員研修により、資質・能力の向上を図った。 ・キャリア教育の一部として読売新聞社などの外部人材より指導を仰いだ。 ・上級生には人に与える喜びを実感させることができ、下級生については目上の者を尊敬する意識を培わせた。	

コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の伸長	・「授業で発言の場や活動の場を多く取り入れている」85%	・全教科で言語活動を取り入れた工夫した授業の実施 ・生徒会朝礼の充実	「グループ活動やペア活動で、話し合ったり、発表したりすることは好きだ」59.7%	授業で話し合いや発表の機会を多く取り入れた。また、総合的な学習では学んだ事柄を学年全体の場や学習発表会で、ICT を活用しプレゼンテーションを行った。	
生徒会、委員会活動の活性化	・「行事・部活動に積極的に取り組んだ」85%	・生徒実行委員会を中心とした行事の運営や生徒会、委員会の主体的な活動の推進	「行事・部活動に積極的に取り組んだ」81.3%	・３年生を中心とした実行委員が、リーダーシップを発揮して生徒主体の運動会・学習発表会を運営することができたが、目標値には及ばなかった。	

６　まとめ

（１）今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

コロナ禍でありながら、大きな行事は全て実施することができた。しかし、コロナの状況で延期する想定もあり、年度の前半に行事が立て込み、振り返りの時間を充分に確保できず、次の行事となり喜びや達成感を噛みしめる時間をもたせることができなかった。来年度は事後指導がしっかりと行えるような予定を組む。

新学習指導要領に合わせた評価・評定が定着しつつあるが、単元によってはある観点において評価材料が少なくなるなど、課題も残る。評価材料の数に偏りがない年間計画を検討する必要があるため、来年度も評価について、研修が必要となる。

学力向上策として、授業では数学と英語を少人数制にし、単元ごとにスモールステップテストを実施しています。また、基礎が未定着の生徒には放課後補習に全教員で指導にあたり、定着を促します。さらに、自校作成の家庭学習ノートは定着しており、保護者のみなさまにも学習状況の確認等ご協力いただきながら、家庭学習の習慣づけを図っています。

小中連携事業は、外部講師を招聘した教員研修会を２回、授業研究を３回、指導案検討を１回実施し、「指導と評価の一体化の実現に向けた系統性ある指導の工夫」について、研修を深めました。また、部活動体験やアシスタントティーチャー等の生徒と児童の交流活動により、小中９年間の円滑な接続を目指します。

生活面では、「あ・じ・み・こ・し」（あいさつ･時間･身だしなみ･言葉遣い･姿勢）を指導の指針とし、礼儀正しく快活な人格の育成を目指しています。次年度は、さらに学力･体力の向上と健全育成を目指し、それぞれの取組についての課題を達成できるよう、教職員一枚岩となって尽力してまいります。

（２）保護者や地域へのメッセージ

日頃より本校の教育活動にご理解ご支援ご協力を賜り感謝申し上げます。
宮城･小台地域は、小さな乳幼児からご年輩のみなさままで、ひとつの絆でつながっている素晴らしいところです。その貴重な財産である中学生の健全育成と学力向上のために、教職員の総力をあげて尽力してまいりますので、今後ともなお一層のご理解ご支援ご協力をお願いいたします。

（３）その他（学校教育活動全般について）

今年度は、１年２学級・２年２学級・３年１学級の全校５学級で編成されました。
次年度以降も、小規模校ならではの特長を最大限生かし、複数担任制・指導方法の工夫等、生徒一人一人にきめ細やかな指導並びに支援ができるよう教育活動にあたってまいりますので、ご理解ご支援ご協力をお願いいたします。